

第 41 回一志会例会 レポート 平成 29 年 8 月 30 日



ゲスト 十市 勉氏

一志会は、「公の精神」のもとに積極的に社会的責任を果たそうとの想いを共有する大企業経営幹部の「コミュニティー」ですが、8月30日に第41回例会を開催しました。

今回は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所 参与の十市 勉氏をゲストにお迎えして、「今後の世界情勢とわが国のエネルギー戦略」と題した卓話をいただきました。

十市氏は、1973年に財団法人日本エネルギー経済研究所 研究員に就任してから、米国マサチューセッツ工科大学エネルギー研究所 客員研究員、日本エネルギー経済研究所専務理事（最高知識責任者・戦略研究グループ担任）・首席研究員などを歴任され、現在、同研究所 参与に就任し、エネルギー・地球環境問題を専門分野として研究されています。十市氏は、一柳が知る限り、日本ではエネルギー問題のプロ中のプロで、人柄の良い最高の人物です。一柳が資源エネルギー庁に勤める頃からずっと今日まで、エネルギー分野の先生役の存在です。

十市氏は、冒頭、日本のエネルギー自給率の低さに触れ、資源の他国への依存という現状において、「激変する国際情勢」「高まる気候変動リスク」「目覚ましい技術革新」という3つの視点から日本の長期的なエネルギー戦略を考える必要があると説明されました。

次に、これらの視点からアメリカのシェール革命、中東地域の不安定化、ロシアと欧米の対立、中国の資源・エネルギー戦略、気候変動問題、世界の電源種別の構成比や導入量の推移、そしてEVやIoTといった技術革新など、日本を取り巻く世界のエネルギー情勢についてお話しいただきました。

中でも、中国の現状については、南シナ海での軍事拠点建設、「一带一路」構想、原発強国へ向けた動き等、中国のエネルギー政策の狙いと日本への影響について深い洞察による分析を示されました。

後半ではこのような情勢を踏まえた日本のエネルギー戦略のあり方についてお話いただきました。まず、東日本大震災以降の電源種別割合とCO2の排出量の推移や原発の運転状況等日本の現状についてご説明いただき、現状をふまえて、日本の今後の課題は、持続可能な電力システムを構築による安定供給、電力自由化と原子力の両立、原発への国民理解のための正確な情報提供であるという、専門家ならではのご意見をいただきました。

そして最後に、日本のエネルギー戦略の在り方として、多様性をもったエネルギーミックスの実現の重要性、シーレーンの安全確保やアジア諸国とのエネルギー協力といったエネルギー安全保障の向上と国際協力の強化の必要性、人材の確保・育成による産業の活性化、民間主導の連携・再編



十市氏 卓話風景

による強靱なエネルギー企業の構築が必要との提言で卓話を締めくくられました。

講義後には、原発政策とミサイル防衛、再生可能エネルギー政策の在り方など活発な質疑が行われました。

続いて、今回初参加となる、佐藤 東京電力エナジーパートナー 常務取締役、武田 レオパレス 21 取締役専務執行役員から自己紹介を頂きました。



東京電力エナジーパートナー
佐藤氏



レオパレス 21
武田氏



NTT 西日本 伊藤氏
会員スピーチ風景

また、会員の交流時間帯では、会員スピーチとして、伊藤・西日本電信電話 取締役から、「スマート光ソリューションで社会の課題解決」と題し、スマート光ソリューションについて具体例や動画を用いてご紹介いただきました。

その後、澤井・ダイキン工業 執行役員より来年2月に行う、一志会特別例会「テクノロジーイノベーションセンター見学会」についてのご案内をいただきました。

続いて会員からの近況報告として、菊池・日本政策投資銀行 取締役常務執行役員、太田・岩谷産業 常務取締役、深澤・セガサミーホールディングス 常務取締役、山田・あずさ監査法人 常務執行理事、富加見・MC データプラス 取締役副社長よりそれぞれ報告をいただきました。

中締めまで十市氏を囲んでの交流が続き、大変にぎやかな雰囲気が続きました。



ダイキン工業
澤井氏



日本政策投資銀行
菊池氏



岩谷産業
太田氏



セガサミーホールディングス
深澤氏



あずさ監査法人
山田氏



MC データプラス
富加見氏